

畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターは 2013 年に設立され、2014 年にはハード面であるオープンラボが完成し、それから 12 年が経過しました。全室ガラス張りの研究室かつ実験室と隣接する施設は、教員、研究者、大学院生、学部生の垣根を越え、その都度ディスカッションやミーティングがはじまるといった空間となりました。

このセンターは、理学療法学科や大学院健康科学研究科の教員を含む 11 名の研究者と客員研究員で構成されており、研究の発信、研究の指導、web・SNS を通じた情報提供、各種研究会やセミナーの開催、専門職向けリカレント教育、他の研究機関との共同研究会など、多岐にわたる活動を展開してきました。

2014 年度から 2025 年度にかけての 12 年間で、センターの研究者が発表した研究成果は、学術論文が合計 391 編、そのうち査読付きの国際論文が 246 編、査読付きの国内論文が 31 編、招待総説が 113 編にのびります。また、著書は分担執筆を含めると 79 編に上ります。国際学会発表は 92 回、国内学会発表は 616 回、招待講演（民間企業からの依頼を除く）は 436 回に及びます。さらに、学会表彰は 34 件、年次外部研究費の獲得件数は累積にすると 94 件に上ります。特に 2025 年度においては、査読付国際論文 30 編、国内論文 11 編を公表し、Brain Communications, Psychological Research, Archives of Physical Medicine and Rehabilitation, European Journal of Pain など、専門領域において重要な国際誌への掲載を行いました。さらに、学会において 4 件の表彰を受けるなど、研究の質の面においても高い評価を得ました。

事業に関しては、専門領域の研究会を主催しています。こうした活動には、センター設立以前の活動を含めると約 15,000 名が参加され、専門職のリカレント教育に大きな役割を果たしてきました。また、SNS やプレスリリースを通じた研究成果の発信にも積極的に取り組み、社会への還元を推進してきました。そして、多くの研究機関（フランス国立科学研究センター、フランス国立衛生医学研究所、リヨン神経科学研究センター、リヨン大学病院、リヨン高等師範学校、パリ・ソルボンヌ大学、パリ・サルペトリエール病院、東京大学、名古屋大学、明治大学、東海大学、立教大学、東京都立大学、慶應義塾大学、産業総合研究所、国立障害者リハビリセンター研究所、他）や臨床施設（主に大学院生が属している施設）との共同研究を通じ、多くの研究費を獲得してきました。特に 2025 年度は、JST 戦略的創造研究推進事業 CREST・ANR の国際共同研究の一環として、フランス・ボジョレーにおいて国際カンファレンス「1st International Conference “(Re)Integrating Selves”」をホストとして開催するなど、国際共同研究の主導的な役割を担うに至りました。

今後も研究成果の発信と地域との連携を一層深めるとともに、「ニューロ」に限らない広い視野から、人々の生活や社会に寄与する研究センターとしての発展を目指してまいります。センターのさらなる発展のため、今後ともご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この度は 2025 年度の活動内容を年報としてまとめました。こうした活動を支えて頂きました関係機関ならびに関係者各位に深く感謝致します。

2026 年 4 月

センター長 森岡 周